

笠朝臣金村の、伊香山にして作る歌二首

一五三二番

草枕くさまくら 旅行たびゆく人もひと 行きゆ触ふれば にほひぬべく  
も 咲さける萩はぎかも

一五三三番

伊香山いかごやま 野辺のへに咲さきたる 萩はぎ見みれば 君きみが家いへなる  
尾花をばなし思おもほゆ

石川朝臣老夫の歌一首

一五三四番

をみなへし 秋萩あきはぎ折をれれ 玉梓たまほこの 道みち行きゆづとと  
乞こはむ児こがため

藤原宇合卿の歌一首

一五三五番

我が背子せこを 何時いつそ今いまかと 待まつなへに 面おもやは  
見えむ 秋あきの風かぜ吹ふく